

報告 4

特別支援学校部会

1 開催状況の概要

- (1) 日 時 令和4年2月18日(金)午後3時30分から午後4時30分まで
- (2) 方 法 Web会議システムによるリモート開催
- (3) 出席者 特別支援学校部会員4名(2名欠席)

2 校内ミニ研修報告書について

※徳島県GIGAスクールサポートサイトで公開(掲載数:131事例)

【活用事例の多いアプリケーション】

アプリケーション名	主な活用場面
ZOOM Cloud Meetings	情報保障・連絡手段・リモート学習
Microsoft PowerPoint	教材提示・事前学習・視覚支援
Keynote	視覚支援・手順書づくり・発表
iMovie	動画撮影・モデリング動画作成
Microsoft Teams	連絡手段・リモート学習
MetaMoJi Classroom	授業中の児童生徒同士での情報共有

【障がい種別ごと利用頻度の多いアプリケーション】

障がい種別	主な活用アプリケーション
視覚障がい	UDブラウザ・のじぎくシンプルデিজィプレイヤー等
聴覚障がい	UDトーク, Microsoft PowerPoint, MetaMoJi Classroom
知的障がい	Keynote, Microsoft PowerPoint, ごじゅーおん等
病弱・身体虚弱	ZOOM Cloud Meetings, iMovie, Keynote等
肢体不自由	アイビスペイントX, NHKforSchool, 計算機+式が見える電卓等
重複障がい	タッチ!あそべビー, とびだす動物タッチ等

(2) 報告書例

ア えこみゅ〈知的障がい〉

- ・発語が難しい生徒とコミュニケーションがとれ、あいさつや報告、援助要求などができる。イラストがあり視覚的に分かりやすい。
- ・活用する場面を設定し、はじめは操作の練習などを行った。

イ アイビスペイントX〈病弱・身体虚弱〉

- ・指や入力装置など、生徒の実態に合わせた方法でイラストを描くことができる。
- ・生徒の実態にあった機能を使って年賀状のイラストやポスターのデザイン、できあがったデザインを3Dプリンターで立体化するなど様々な作品を作ることができた。

ウ 絵カードタイマー〈肢体不自由〉

- ・時間が減っていく様子が視覚的にわかりやすい。また、何の作業をしているのかも画像と文字により視覚的にわかりやすく示される。
- ・何の活動（機織り作業、運動など）をしているのかを示すため、活用の写真を掲載して活用した。

3 端末の持ち帰りが、保護者との情報共有や共通理解につながった事例

- 学校でできるようになったことを家庭でも般化させることを目的として、教員自作教材やモデリング動画を作成して、端末で撮影し、持ち帰りをしている。
- 重度自閉症の生徒が授業等で頑張っている様子を撮影し、教員がコメントをつけて持ち帰らせることで、指導の共有化が図られ、保護者からも好評であった。
- 「デジタル連絡帳」により、保護者に本人の様子が情報共有できた。

4 各校での課題と改善に向けた取組について ～各校からの意見～

(1) GIGAスクール構想を推進する上での課題について

①情報セキュリティに関する課題について

- 授業の様子の写真・動画について、対面ではある程度の注意ができるが、遠隔授業の場合、無断での撮影、SNS等での共有の心配がある。
- 個人情報保護の観点から、学習場面で撮影した写真や動画、その他学習に使用したデータの意図せぬ利用について注意が必要である。

②オンライン学習を実施する上での課題

- 小学部では、オンライン・オンタイムでの配信が授業の構成上難しい。児童の発達段階として1対1の対面で反応を見ながら課題提示し、授業を進めているため。
- ドロップトークアプリを活用したいという要望が非常に多い。
※Drop Tapは有償だがGIGAスクール端末への無償提供されている。

③端末の故障や破損の際の取り決め等の課題

- 経済的な理由で、破損した場合に、弁償ができないので、保護者が持ち帰りを遠慮する事例が相当数ある。
- 次年度以降も引き続き、端末破損時の補償について、不安を感じている保護者が多い。

④教員の負担感について

- GIGAスクール構想による1人1台端末使用に関する事務負担感が非常に大きい。端末管理、サーバ管理、OS・アプリ管理、ホームページ管理、教員研修支援、授業支援、準備支援、教材開発など、学校事情に応じてGIGAスクールサポーターを最大限活用しているため、多くの学校から次年度以降も配置してほしい旨の要望が多い。

(2) 改善に向けた県教委の具体的取組について

①情報セキュリティに関する具体的取組について

- 個人情報保護等においては、保護者との共通理解を図り、児童生徒へ情報モラル教育の徹底を図る必要がある。
- 持ち帰り時の写真消去の現場の負担軽減のため、各学校の好事例（学校ごとのルール等）を収集し、共有する。

②オンライン学習の実施に関する具体的な取組

- 小学部の授業配信に関して、放課後に撮影する、授業者以外に撮影者を補教等で対応する等の工夫が必要である。
- ドロップトークアプリなど学校現場が必要としているオンライン学習に使用できるアプリケーションの導入を進める。

5 令和4年度の重点目標について

(1) 目標について

令和4年度 重点目標(案)

発達段階や障がい種別に応じたタブレットの利活用の充実
～みんなで「I(いつも)C(ちょっと)T(たのしい)」活用を～

(2) 令和4年度の具体的取組案

- 情報モラル教育の充実
- 特別支援学校間の情報共有を図り、円滑なオンライン学習実施に向けた指導体制を推進
- 教育効果の高いアプリやオンライン配信の好事例を収集し、横展開